

2023年9月11日  
bp  
中部電力株式会社

## bp と中部電力がインドネシア・タンゲーにおける CO2 貯留に関する協力協定を締結

bp の子会社である BP Berau Ltd. (タンゲーLNG<sup>\*</sup>のオペレーターであり権益保有者の代表、以下「BP ベラウ」) および中部電力株式会社 (以下「中部電力」) は、本日、インドネシア・西パプア州のタンゲーの CO2 貯留地の活用に関する実現可能性調査のための協力協定 (以下「本協定」) を締結しました。

※インドネシア最大のガス生産プロジェクトであり、同国の天然ガス生産量の約 20%を占める。bp がタンゲーLNGにおいて運営するタンゲーCCUS プロジェクトは、2021年に同国政府より承認を受けた開発計画に基づき基本設計が進められており、同国で最も進んだ CCUS プロジェクトである。貯留可能量は約 18 億 t-CO2 であり、同国初の CCS ハブになる可能性がある。

bp および中部電力グループは、2050 年までに事業全体における CO2 排出量をネット・ゼロにすることを目指しています。

両社は、2023 年 2 月に締結した日本およびアジア地域の脱炭素化に向けた協力協定に基づき、名古屋港周辺の脱炭素化支援に取り組んでいます。

名古屋港は、貨物取扱量が日本最大の港で、日本の CO2 総排出量の 3%を占めており、2030 年度までに 2013 年度比で 46%削減する目標を掲げています。

その目標実現に貢献すべく、両社は、CCUS の実現に向けた、CO2 の回収・集約、その有効活用および海外の CO2 貯留地への輸送に関する調査を行っております。

BP ベラウおよび中部電力は、本協定に基づき、名古屋港からの国際的な CCUS バリューチェーン構築に向け、同港で排出された CO2 のタンゲーでの貯留に関する実現可能性について調査を行います。

また、両社は、bp の大規模 CCS プロジェクトの開発経験と、中部電力の中部エリアにおけるエネルギー事業者としての知見を組み合わせ、日本およびアジア地域における脱炭素ソリューションの促進に向けて検討を進めてまいります。

### <本事業に関する担当役員のコメント>

○bp キャシー・ウー ガス&低炭素エネルギー、アジア太平洋地域社長

bp と中部電力は長年に亘り関係を育んできました。本協定は、インドネシア及び日本のネット・ゼロ目標達成を支援するため、両社が、CCUS のイニシアティブを通じて継続的に協力していくことを表しています。

○中部電力 専務執行役員 グローバル事業本部長 佐藤 裕紀

相当量の CO2 貯留が可能であることが期待されている、タンゲーという貯留地を特定して実現可能性を調査できることは、名古屋港 CCUS 事業にとって、重要なマイルストーンとなります。日本政府の掲げる 2030 年の CCS 事業の実現に向け、bp と協力してタンゲーの評価に取り組んでまいります。



左：bp Kathy Wu Regional President Asia Pacific, Gas and Low Carbon Energy

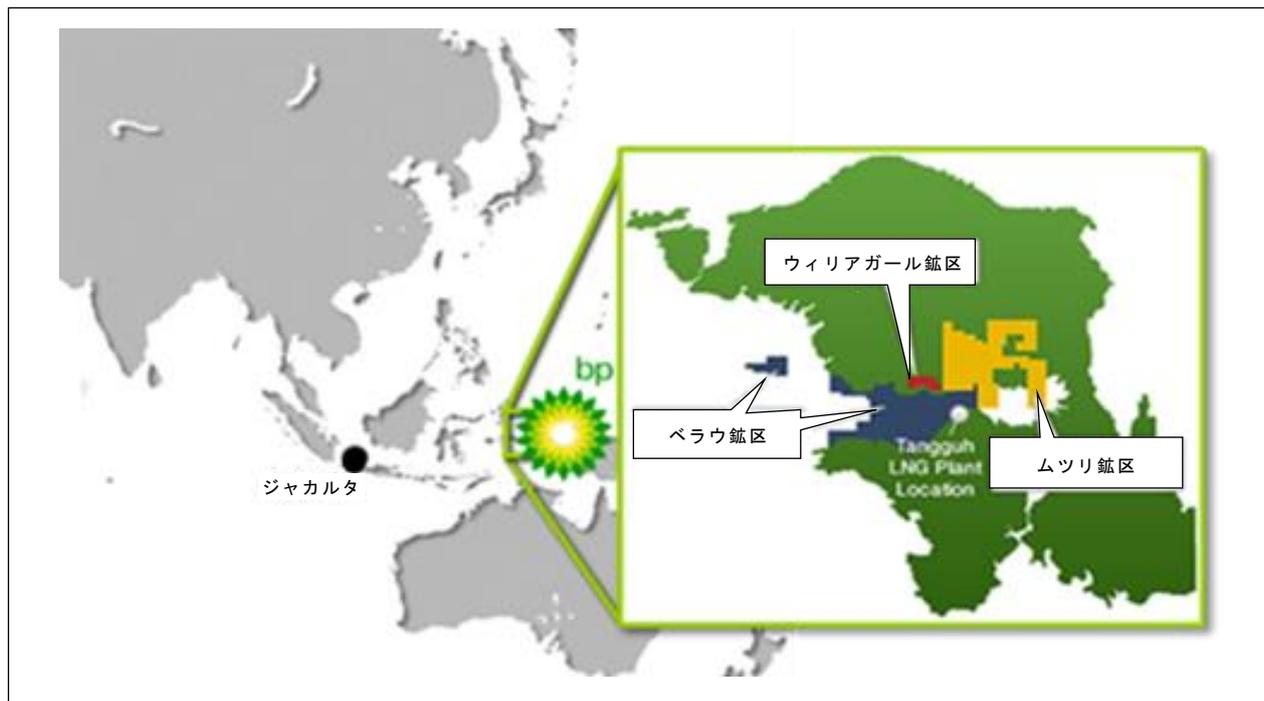
右：中部電力 岸久嗣 グローバル事業本部 部長

写真提供：Indonesia CCS Center

### <参考 1：タングーLNG プロジェクトの概要>

所在地	インドネシア共和国 西パプア州 ビントゥニ湾	
生産開始	2009 年	
生産能力	年産 760 万トン (380 万トン×2 系列) 現在建設工事中の第 3 系列稼働後は、年産 1140 万トン (380 万トン×3 系列) となる予定。	
データ	タングーはインドネシアで最も生産量の多いガス田であり、同国内のガス生産量の 20%程度を占める。 総投資額は 100 億米ドルで、1,500 隻以上の LNG を安全的に供給している。 第 3 系列稼働後は、国内の天然ガス生産量の約 35%に貢献することとなる。	
権益保有者	BP ベラウ (オペレーター)	40.22%
	MI Berau B.V	16.30%
	CNOOC Muturi Ltd.	13.90%
	Nippon Oil Exploration (Berau) Ltd.	12.23%
	KG Berau Petroleum Ltd	8.56%
	Indonesia Natural Gas Resources Muturi Inc.	7.35%
	KG Wiriagar Petroleum Ltd.	1.44%

<参考 2 : タンゲーLNGプロジェクトの位置>



(出典 : BP ベラウ)